



東京YMCA

2016 6 月号

発行所 公益財団法人東京YMCA 発行人 廣田光司
135-0016 東京都江東区東陽2-2-20 電話 03-3615-5562

URL <http://tokyo.ymca.or.jp>

東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

名誉会員に推挙

あおしか ひろあき

青鹿 博明さん (85歳)



戦後まもない1951年、20歳になった記念に何かしたいと思ったときに「新しい友だちを作りませんか」という新聞広告を見て東京YMCAに入会。以後仕事帰りにYMCAに通い続け、病院慰問やコーラスなど多方面にわたり奉仕された。1980年から約10年「山手ランチ委員」を務めたほか、20年以上にわたりバザー委員長として貢献した。日本YMCA同盟東山荘の運営委員も永年務めるなど全国のYMCA運動にも寄与された。

表彰の後で青鹿さんは「YMCAのおかげで今の人生がある。私の方からYMCAに感謝状を差し上げたい」とあいさつされた。

ユース ボランティア・オブ・ザ・イヤー Youth Volunteer of the Year



山本 司さん (東陽町センター) *写真右端
社会体育・保育専門学校の実習としてキャンプに参加して以来、障がい児のキャンプや水泳、サッカーなど、多くの活動に積極的に参加。

福岡 隆弘さん (江東センター) *写真左端
小学生の野外活動はじめ、江東センターのプログラム全般で先頭にたって活動。いつも子どもたちと同じ目線で楽しみながら関わっている。

副島 麻衣子さん (西東京センター) 左から2番目
大学1年生から4年間、幼児から高校生、知的障がい児・者の活動など幅広く参加。リーダートレーニングでも活躍し他のリーダーからも慕われる。

奥野 萌子さん (山手センター) *写真中央
大学1年生から幼児の野外グループ活動、小中学生のキャンプなどに幅広く参加。現在はリーダー会の中でも中心的役割を担っている。

保坂 天蒼さん (南センター) *右から2番目
幼児の野外活動、小中学生のキャンプのほかNYフロストバレーのキャンプにも参加。南センターのバザー委員長を3年間務めるなど貢献した。

2016年度会員部運営委員候補者

◆再任 (12名)

笈川 光郎	大橋めぐみ	小松 重雄
長谷川正雄	柿沼 敬喜	金丸 満雄
菰渕 光彦	直井 道子	中村 孝誠
長津 徹	村杉 克己	山口 直樹

◆新任 (8名)

相川 達男	上田 晶平	工藤 大丈
高橋 伸	中村 周三	長谷川あや子
林 正人	宮谷 直幸	

◆退任 (8名)

浅見 隆夫	太田 勝人	蔵知 浩
小口多津子	高嶋美知子	蒔田 敏雄
宮内 友弥		

*任期満了

浅見 隆夫	太田 勝人	蔵知 浩
小口多津子	高嶋美知子	蒔田 敏雄
宮内 友弥		

ズ (東京八王子ワイズメン 小口多津子)

「東京八王子ワイズメン」は、毎年「地雷」をテーマに、4年前から加えて東日本大震災復興活動も支援しています。照明から一切をメンバーで行い、回を重ねるたびに皆が、毎年、司会者選任に苦勞します▼2人体制で、今年はあとの1人を東京YMCA西東京センター長のNさんがご紹介くださったボランティアリーダーにお願いしました。幕が開いた当日、それは見事な司会でした。司会が初めてというその学生リーダーのO嬢、きれいな通る声で本当に素晴らしいものでした▼あまりに見事だったので、何かお礼をしたい気持ちにさせられ、Nさんに言ってみましたが、きつぱりと「YMCAの人は、こんな機会を与えてもらわなかったら、こんなに勉強はできなかったと考えます。そのことはボランティアリーダーをしているうちに自然に身に付いています」とおっしゃいました▼なるほど、と、リーダーの行動の中には、与える側と同時に与えられることの二面を合わせ持っていることを実感しました。



今年新たにユースボランティアリーダーに登録された皆さんには委嘱状がおくられた。



会員部運営委員として計20人が推挙された。

輝くために」と題して講

た。展を願って閉会とな



た。「校長先生、昨日は

す。命は自分のためだけ

(文・広報室)

「東京YMCA会員大会」が5月28日に東陽町センターで行なわれ、東京YMCAを担う134人の会員が集まった。この大会は年に一度、事業の報告および計画を確認し、委員の推挙や表彰などを行なうもので、20

03年の会則改正以来14回目の開催となった。第1部では、今年度の事業計画に加え、現在作中の2016〜18年

望から始まり、拠点計画や財務計画、人材育成計画など組織全体にかかわる13項目にわたって策定するもので、7月末頃に正式に承認され、実施される予定である。大会席上ではそのうちの会員活動計画について、会員を

取り巻く現状と課題をふまえ、新しい会員運動や活動の開発のほか、会費の使途の明確化など、会員活動活性化のための方策が検討されていることが報告された。

続いて今年度の会員部運営委員として、新任8人と再任12人の計20人が推挙され、また名誉会員として、65年にわたってYMCAに貢献された青鹿博明さんが表彰された。「ボランティア・オブ・ザ・イヤー」には、江東区内の小学校校長を歴任しながら50人以上の先生とともにYMCAのバザーなどで活躍されている「大沼謙一先生と教員仲間の皆さん」が選ばれ、大沼先生には第2部で「子どもたちの未来が

なぜ私が教員仲間にYMCAを紹介したかという、教員が疲弊しているからです。先日ある学校の先生の1か月の時間外労働を調べたら120時間でした。超ブラッ

ク企業です。家と学校を往復する日々では、社会との接点が少なく、教室だけの狭い世界で悩み苦しむことが多くなりま

す。だから私はYMCAの使命や主旨を説明し、ボランティアで参加することを勧めています。ある年のバザーで、私のいた小学校に通う中国の残留孤児の親子に会いました。日本語が話せないお母さんとその生徒は、300円で買った毛布などを自転車いっぱいに積んで帰りました。次の日その子は言いました。命は自分のためだけ

にあるものではない。だから辛くても、苦しくても生きていかなさいと。「大切なことはだれかの役に立つこと。親は子どもが心豊かに育つことを願っている」。そんなメッセージを贈っていました。

今こそYMCAが求められている時代だと思ひます。誰だつてどこかで誰かの役に立ちたい。そしてどこかで誰かにすがりたいんです。そのため場所がYMCAです。YMCAがやっていることは、お金を代えられないものだと思ひます。オープンハウスで教員の笑顔を見ると、声をかけて良かったと思ひます。東陽町センターはこれから形を変えていきますが、YMCAの理念や使命の必要性は増していくと思ひます。

第14回 会員大会

会員活動の活性化を願って

We build strong kids, strong families, strong communities. YMCAは、たくましい子どもたち、家族の強い絆、支えあう地域社会を築きます。



おおぬま けんいち
大沼 謙一 氏

1981年にNYフロストバレーYMCAを訪問。以来、江東区内の小学校で校長を歴任する傍らで、東陽町コミュニティセンター運営委員ほかクリスマスオープンハウス委員長などを務めている。教員仲間にもYMCAの使命を語り、これまでに50人以上の先生方がバザーや餅つきなどで活躍された。近く著書『教師への応援歌』(海鳴社)を刊行予定。

ボランティア・オブ・ザ・イヤー

大沼謙一氏が講演

赤三角

東京八王子ワイズメンズクラブは3月に第18回チャリティコンサートを開催しました。益金は毎年「地雷

熊本大地震

中長期的支援必要

YMCA避難所に 新たに数百人

→御船町スポーツセンターの様子。食事を配る仙台YMCAスタッフ(写真上)。1日2回の体操風景。(撮影・佐久間眞人)



熊本YMCAが避難所として運営している「益城町総合体育館」と「御船町スポーツセンター」が5月、それぞれの町の「最終避難所」に指定された。今後は近隣の避難所が閉鎖されるたび、ここに集約されることとなる。すでに6月初旬、御船町スポーツセンターに

2500人が新たに入所。益城町総合体育館にも近所避難者は合わせて2000人を越える見込みとなった。もともと熊本YMCAはこの施設の「指定管理者」として、各町から管理運営を任されている。地震直後は双方とも体育

館の天井が崩落し、会議室や廊下での避難生活だったが、5月下旬に修復工事が完了。またYMCAの避難所運営が高く評価されたこともあり、最終避難所に指定された。そのため仮設住宅が整うまで中長期的に避難所運営をすることとなった。

応援している。東京YMCAは4月19日から交代で職員を派遣。初回に現地を訪れた佐久間眞人さんは、阪神淡路大震災の際に1年半にわたって避難所運営に携わり、東日本大震災でも宮古ボランティアセンターを担当した経験があり、今回もいち早く避難所の体制を整えるなど貢献した。

YMCAの避難所では、避難者自身のボランティアを組織するが、中でも子どものボランティア「わくわくワーク隊」によるゴミ回収や新聞配布は、子どものやる気につながるだけでなく、大人たちにも協力の輪が広がると好評だ。ほかにも健康体操の実施、カフェの設置、夜中の1時間おきの巡回、イベントの実



東京YMCAインターナショナルスクール(TYIS)の小学5〜6年生17人が、手編みのニット帽を63個制作し、ウクライナYMCAと関わりのある孤児院の子どもたちへプレゼントした。

東京YMCAは以前からウクライナYMCAと交流関係にあり、TYISの生徒たちは2014年にウクライナで紛争が起きた際、キエフの学生と動画や詩を交換したこともある。今回の孤児院

とはこれまで直接交流はなかったが、ウクライナYMCAの紹介で初めてプレゼントを贈ることになった。これは、TYISの社会科の授業で行われている「サービスマーケティング」の一つとして企画されたもので、毛糸はアメリカのNGO「キッズ・ニット」から購入した。この団体は、チリなどの貧困者支援のために羊毛を買い付け、編み物の材料とセットで販売している。担任のジェームス・ララ先生が見つけて自らサンプルを作り、授業で紹介したところ、「やってみよう」と意見が一

致。昨年から製作をスタートした。とはいえ生徒たちは全員、編み物をするのは初めて。中には編み物が楽しくなって、1人で7つも編んだ子もいたが、力の加減がうまくいかずに毛糸が切れてしまい、苦労した子もいた。長期間にわたる根気のいる作業だった分、完成した帽子を前に生徒たちは誇らしげな表情だった。

帽子と共に、自己紹介などを書いた手紙と、遠足で買った浅草寺のお守りや扇子、絵ハガキなどたくさんプレゼントを用意して5月、国際便で送った。(広報室)

熊本の人たちに経験させてはならない」と力をこめた。また、近い将来発生すると言われる関東での大地震についても「災害時に人はYMCAに避難してくる。熊本に学んで備えておくべき」と言う。対岸の火事とせず、中長期的に関わり続けていく必要がある。

【募金のお願ひ】YMCAでは引き続き募金を受け付けています。お預かりした募金は、熊本YMCAを通じて被災者支援に使わせていただきます。(振込先) みずほ銀行 神田支店 普通1123669 公益財団法人東京YMCA *お名前の後に「クマモト」とお書き下さい

第7代総主事 星野達雄さんを偲ぶ 星野達雄さんは、去る4月26日、95歳という地上でのお役目を終えられ、天父の御許へと凱旋された。星野さんは群馬県の生まれで上智大学に学び、アジア・太平洋戦争中に召集された朝鮮北部で隅谷三喜男先生と相知ることとなり、生涯の交わりを結ぶ。戦後、大正海上火災保険(現・三井住友海上火災保険)に勤務、職場で行われていたYMCAの聖書輪読運動に出会い、そのリーダーとなったことを機に東京YMCAに勤務することとなる。経理、山手フランチ勤務を経て、第7代総主事に就任したが、健康を損ない、1969年末で退任された。それから後は賛助会募金事務局を担当、月例の午餐会を盛り上げるなど、見えない所での働きが大きな功績。山中家族キャンプにも長く関わり、キャンブネームは「ハムさん」と呼んで親しまれた。星野さんはいわゆる文筆家ではなかったが、自費出版で隠れたYMCAの功労者を紹介された。それを良しとされた光代夫人のご苦労もまた大きな功績を思う。笑顔絶やさないこと、なかつた星野さんを偲び、御許での再会が待たれる。(東京YMCA名誉主事 小林道彦)

『ほとばしる鋼—YMCA主事菅儀一の生涯』(1980年) 『ゆたけき人再発見—YMCAをはぐくんだ人々』(1983年) 『星野光多と群馬のキリスト教』(1987) ほかに、編著・著書は20冊を超える。

インターナショナルスクール生が社会科授業で ウクライナへ 手編み帽子60個プレゼント

とほこれまで直接交流はなかったが、ウクライナYMCAの紹介で初めてプレゼントを贈ることになった。

これは、TYISの社会科の授業で行われている「サービスマーケティング」の一つとして企画されたもので、毛糸はアメリカのNGO「キッズ・ニット」から購入した。

この団体は、チリなどの貧困者支援のために羊毛を買い付け、編み物の材料とセットで販売している。担任のジェームス・ララ先生が見つけて自らサンプルを作り、授業で紹介したところ、「やってみよう」と意見が一

致。昨年から製作をスタートした。とはいえ生徒たちは全員、編み物をするのは初めて。中には編み物が楽しくなって、1人で7つも編んだ子もいたが、力の加減がうまくいかずに毛糸が切れてしまい、苦労した子もいた。長期間にわたる根気のいる作業だった分、完成した帽子を前に生徒たちは誇らしげな表情だった。

帽子と共に、自己紹介などを書いた手紙と、遠足で買った浅草寺のお守りや扇子、絵ハガキなどたくさんプレゼントを用意して5月、国際便で送った。(広報室)

熊本の人たちに経験させてはならない」と力をこめた。また、近い将来発生すると言われる関東での大地震についても「災害時に人はYMCAに避難してくる。熊本に学んで備えておくべき」と言う。対岸の火事とせず、中長期的に関わり続けていく必要がある。

【募金のお願ひ】YMCAでは引き続き募金を受け付けています。お預かりした募金は、熊本YMCAを通じて被災者支援に使わせていただきます。(振込先) みずほ銀行 神田支店 普通1123669 公益財団法人東京YMCA *お名前の後に「クマモト」とお書き下さい

第7代総主事 星野達雄さんを偲ぶ 星野達雄さんは、去る4月26日、95歳という地上でのお役目を終えられ、天父の御許へと凱旋された。星野さんは群馬県の生まれで上智大学に学び、アジア・太平洋戦争中に召集された朝鮮北部で隅谷三喜男先生と相知ることとなり、生涯の交わりを結ぶ。戦後、大正海上火災保険(現・三井住友海上火災保険)に勤務、職場で行われていたYMCAの聖書輪読運動に出会い、そのリーダーとなったことを機に東京YMCAに勤務することとなる。経理、山手フランチ勤務を経て、第7代総主事に就任したが、健康を損ない、1969年末で退任された。それから後は賛助会募金事務局を担当、月例の午餐会を盛り上げるなど、見えない所での働きが大きな功績。山中家族キャンプにも長く関わり、キャンブネームは「ハムさん」と呼んで親しまれた。星野さんはいわゆる文筆家ではなかったが、自費出版で隠れたYMCAの功労者を紹介された。それを良しとされた光代夫人のご苦労もまた大きな功績を思う。笑顔絶やさないこと、なかつた星野さんを偲び、御許での再会が待たれる。(東京YMCA名誉主事 小林道彦)

第20回バングラデシユ奨学基金チャリティーコンサート

高石ともやさん、20年欠かさずに支援

4月29日、「高石ともやバングラデシユ奨学基金コンサート」が、日本キリスト教団浅草教会で行われ、今年も約100人の来場者が高石さんの「語りうた」に聞き入った。

このコンサートは、YMCA活動に貢献された故江幡玲子氏（思春期間



永年の支援活動に、国際協力部の保坂弘志から感謝状が贈呈された。高石さん（74歳）はアスリートとしてもご活躍で、今冬に連続40回目のホノルルマラソン完走を目指している。

題研究所）のプロデュー

いる。

会場では毎回コンサートの合間に、バングラデシユを訪問したスタッフによる報告や現地から寄

せられたメッセージ等を通してバングラデシユMCAの歩みを共有している。フォークシンガーとし

て60年代から活動を続ける高石さんのコンサートには、ご本人が言われるように、筋書きや決まり事がない。「言いたいこ

とを言い、歌いたい歌を歌う」高石さんに、来場者も頷いたり、笑ったり、泣いたりしながら、「生きている」実感を共に味わう。

半世紀以上歌い続け、人に影響を与え続けてきた高石さんならではの視点と語りと共に、今年は『阪神淡路大震災』『花

は咲けども』『あわてなさんな』『十字架に帰ろう』等の歌が届けられた。東京YMCAからは、20年間途切れることなく愛に溢れるコンサートを開催し続けてくださった高石さんに、感謝の気持ちを込めて感謝状を贈呈した。（国際協力部 日野枝里子）

にほんご学院留学生と保育科学生
キャンプソングとゲームで交流



56人の学生たちにゲーム指導をする星野太郎さん（写真中央）。笑い声がたえない授業になった。

にほんご学院では5月6日、4月に入学した留学生34人と社会体育・保育専門学校保育科1年生22名が合同で、キャンプソングとゲームの授業を行いました。キャンプソングの指導は浅羽俊一郎さん（東京山手ワイズメンスクラブ・国際委員）、石丸由理さん（武蔵野多摩クラブ・リトミック指導者）、ゲームは星野太郎さん（財務部）

です。ゲームや歌を織り交ぜながら進行し、「大きな歌」はパートに分かれて元気に、「ふるさと」は振りをつけて歌いました。ゲームでは留学生もまだ拙い日本語を使いながら、じゃんけんをしたりグループになったりと、保育科の学生と交流をはかりました。保育科の学生の中には初めて外国人と接したという人もいたとか。授業後の感想でも楽しかったという声がたくさん聞かれました。

キャンプソングを指導くださった石丸由理さんは、「にほんご学院の皆さんが歌詞を一生懸命覚えて元気に、ふるさと」は振りをつけて歌いました。みんながゲームを楽しみ、YMCAの幅広い活動の一面に触れることができた、有意義な時間でした」と感想を寄せられました。

二つの学校、ワイズメンスクラブ、スタッフと、様々なつながりによって実現したこの授業、またこのような機会があることを願っています。

（にほんご学院 松浦真理子）

2つのワイズメンズクラブが誕生

「ワイズメンズクラブ」はYMCAをサポートすることを目的とした国際的なボランティア団体で、世界65カ国で活躍し、現在国内には146のクラブがあります。今春、東京YMCAと関わりの深い2つの新しいクラブが誕生しました。

■ 東京多摩みなみワイズメンズクラブ



「多摩地域に新クラブを設立しよう」と2015年1月、設立25年を迎えた「東京まちだワイズメンズクラブ」と20周年の「東京コスモスワイズメンズクラブ」が共同で準備会を重ね、近隣のクラブ、メンバーの協力も得て「東京多摩みなみワイズメンズクラブ」を設立。5月22日、Conti多摩センターで設立総会を開催しました。新クラブ会員は設立総会時点で15名。国際協会加盟認証状伝達式（チャーターナイト）は7月17日に開催予定です。

■ 石巻広域ワイズメンズクラブ



東日本区理事から認証状を受け取る平井会長

主にYMCAが石巻で行なってきた東日本大震災復興支援活動に関わる方々が集まり「石巻広域ワイズメンズクラブ」が設立されました。YMCA石巻支援センターのオーナーである平井孝次郎さんを会長に、活動で訪れた小学校の教頭先生や、歌の広場を開催したグループホームの方、仮設住宅の方など、21名が新クラブメンバーとなり、5月28日に国際協会加盟認証状伝達式（チャーターナイト）を開催。石巻市長も来場され、これまでの東京YMCAの活動に感謝されると共に、今後のワイズメンズクラブによる復興支援活動に期待を寄せられました。

東京－NY フロストバレー便り

フロストバレーYMCAでは毎月「エンployee・オブ・ザ・マンス」(Employee of the Month、今月の従業員)と称してスタッフ1名を表彰しており、今年2月に私が選出された。選出方法は「今月特筆すべき活躍をしたスタッフがいたら名前と理由を送ってください」という内容のメールがスタッフ全員に流れ、寄せられた意見の中から前月の表彰者が最終決定することになっている。これまで施設管理スタッフや寄付金担当者など、さまざまな職種の人が表彰されてきた。来客への接し方がよかったと表彰された人もいる。その後、毎月一度のオールスタッフミーティングで、みんなの前で発表され温かい拍手が送られる。

私自身は、新しい会員登録システムを導入したことが理由となったようだが、選ばれて感じたことは素直に「うれしい」という気持ちだ。私は必要とされている、自分の働きに気づき感謝してくれている人がいる、というのは大きな喜びだった。同様のスタッフへの感謝や表彰式

は年間を通じて行われており、クリスマス前のホリデーパーティーでは「I am Third Award（三番目の賞）」と称して、神様を一番に、自分以外の人を二番目にそして自分のことは最後に考えて行動したスタッフを表彰している。

アメリカは多民族国家のため「Open for All」という言葉が強く意識され、誰をも区別せずに受け入れる価値観が根底に流れている。そのためフロストバレーYMCAでもYMCAの「C」であるキリスト教というのはあまり主張されることは無い。しかし前述したスタッフを表彰するイベントなどを通して聖書の中で描かれる教えがさりげなくフロストバレーYMCAの日常に具体化されていることに気づく。

一人ひとりに目を向け、気づき、光を当てることで身近にいる人たちへの感謝の気持ちや自分自身の価値に気づかされるととても良い取り組みだと感じる。

（在フロストバレーYMCA 池田麻梨子）

すべての人を一つにしてください

熊本のため、共に祈る

「どんな災害、どんな病気があっても、もし、ひとりか、あるいはあなたの民イスラエルが皆おのおのその心の悩みを知って、この宮に向かい、手を伸べるならば、どんな祈、どんな願いでも、あなたはそのすみかである天から聞いてゆるし、おのおのの人に、その心を知っておられるゆえ、そのすべての道にしたがって報いてください。ただあなただけがすべての人の心を知っておられるからです。」（旧約聖書 歴代

下16章28～30節）4月中旬に熊本で大きな地震があり、熊本YMCAは県内14の拠点で打撃を受けました。避難所の運営などを通して地域に貢献を

災の経験を通して、復興の力になるスタッフと展開している様子は仲間として頼もしくもあります。しかし、限られたスタッフでは限界があります。どうか全国の後押しが実を結び、熊本YMCAの仲間たちのために微力ではありますが、駆け付けての応援、各地での募金などで今こそ全国をつなぐの力を発揮したいと思います。旧約の民は祈りました「あなただけがすべての人の心を知っておられるからです。」（総主事 廣田光司）